

火山都市国際会議の豆知識 その参

火山都市国際会議島原大会事務局 (☎65-5540)

火山都市国際会議には、国内はもとより、海外の研究者も多数参加します。そこで今回は、会議開催のお知らせや会議の内容などの情報を、どのように世界の皆さんに発信しているかお知らせします

火山めぐりは、今回から、いよいよ世界の火山紹介です。まず、火山都市国際会議が初めて開かれたイタリアの火山、その中でも有名な「ベスビオ火山」について見てみます。

会議の内容を知らせる パンフレット 「サーキュラー」

会議に興味を持つている人に内容を知らせるには、まずパンフレットを作成します。このパンフレットを国際会議の用語で「サーキュラー」と呼びます。

最初に簡単な「ファースト（一番目の）・サーキュラー」を作成し会議の開催をお知らせ。次に、より詳しい内容や宿泊などの情報を盛り込み、発表論文の募集を行う「セカンド（二番目の）・サーキュラー」を配布します。

火山都市国際会議では、写真のような「ファースト・サーキュラー」をすでに作成し、配布しています。また、海外研究者向けの英語版「セカンド・サーキュラ



日本語版（上）と英語版（下）は火山都市国際会議島原大会ホームページ <http://www.citiesonvolcano5.com/jp/> で見られます

」を一月に配布する予定にしています。その後、日本語版も発行する予定です。日本語版サーキュラーは、市民皆さんにもお読みいただけるように構成しています。

インターネットが大活躍

世界に向けた情報発信には、いまやインターネットは欠かせません。実は、英語版の「サーキュラー」の大部分は、インターネットを通じて配布されます。

インターネットは、刻々と移り変わる状況を伝えるのに便利です。会議の最終プログラムなどは、直前まで変更を加え、ホームページで公開、会議開催までに印刷します。ホームページには、今後、日本語版も準備する予定ですので、出来次第にお知らせします。



松島健博士と行く

世界の火山めぐり

(三) イタリアの活火山

安定した大陸にあるヨーロッパの中で、活発な火山があるのは地中海に突き出た半島国・イタリアです。一九九八年に第一回火山都市国際会議が開催されたのは首都ローマでした。

ローマの南約二百キロ、大都市ナポリ市にあるベスビオ火山はその活発な活動と被害で有名な火山です。西暦七九年の噴火では火砕流によりポンペイの町が一瞬にして高温の火山噴出物に埋まってしまいました。その後の発掘調査で、厚さ六メートルの火山灰層の中に、



ポンペイ遺跡から見たベスビオ火山

人型の空洞がたくさん発見されました。これは火山灰に埋まった遺体が朽ちて無くなった跡で、現在はその空洞に石膏を流し込んで作った人形が恐怖で逃げ惑う市民の様子をリアルに表現しています。ポンペイは世界遺産の一つとして登録されています。

ベスビオ火山は一八三一年にも多量の溶岩流で一万八千人におよぶ犠牲者を出し、一九四四年まで盛んに活動していました。その後は全く静かな状態が続いたこともあり、現在は危険地域に五十八万人もの人々が居住。火山活動が再び活発になったときに、これらの人々をどのように安全に避難させるか、大変重要な問題となっています。

（執筆：松島健九州大学地震火山観測センター助教授・理学博士）